

LS (ロジカルサイエンス)

「批判的思考力(クリティカルシンキング)」 推論 編 (1 / 2)

組 番・氏名

1 . 推測 背景法則・仮説形成・帰納

われわれ人間は日常生活において、知らず識らずのうちに推測を行っているが、その方法は大きく分けて3種類ある。実はこれを意識しておかないと、それこそ知らず識らずのうちに誤った推測を行うことも多くあるのだ。

1 - 1 . 背景法則

【例題1】次の推測において、暗黙の前提となる法則(背景法則)を指摘せよ。

彼は昨日から徹夜で働いている。だから、きっとかなり疲れているに違いない。

背景法則 = 「 _____ 」

背景法則に基づく推測	(1)背景法則を明確にする (2)背景法則の確実性をチェックする
------------	-------------------------------------

【練習問題1】次の論証がなぜ不適切であるかを説明せよ。

S高校は毎日7時間も授業があるんだって。なら、つまらない高校生活で決まりだ。

Empty dashed box for explanation of the argument in the practice problem 1.

1 - 2 . 仮説形成

【例題2】次の推測において、事実としての証拠、事実としての補助前提、ならびに事実としての消去条件をそれぞれ指摘せよ。

ワトソンは郵便局に行ってきたのだろう。郵便局の前は赤土であり、近所には赤土の場所は他になく、ワトソンの靴には赤土がついているからだ。

事実としての証拠 = 「 _____ 」

事実としての補助前提 = 「 _____ 」

事実としての消去条件 = 「 _____ 」

仮説形成	(1)仮説は証拠をうまく説明しているか (2)他に有力な仮説は残されていないか
------	--------------------------------------------

【練習問題2】次の論証がなぜ不適切であるかを説明せよ。

さっきこの薬を飲んだら頭痛がすっかり治った。これはとてもよく効く頭痛薬だね。

Empty dashed box for explanation of the argument in the practice problem 2.

1 - 3 . 帰納

【例題 3】 次の推測において、サンプルとなっているものと、一般化されているものを指摘せよ。

いままで猫を 3 匹飼ったんだがどの猫も「お手」を覚えなかった。この分じゃ、次に飼おうと思っている犬も「お手」は覚えないうらうな。

サンプル = 「」
一般化 = 「」

帰納	(1) サンプルは適切か (2) 一般化は的を外れではないか
----	-----------------------------------

【練習問題 3】 次の論証がなぜ不適切であるかを説明せよ。

羽田空港に到着して山手線に乗ったら、大人たちの多くがマンガを読んでいた。このことから考えても、日本の大人たちの知的水準は低いと言わざるを得ない。

【グループディスカッションメモ】

2. 隠された大前提 議論の落とし穴

われわれ人間の議論において、しばしば誤解や感情的な対立が起こるのは、その議論において「隠された大前提」が存在し、それを当たり前で絶対的なものとして価値付けを行い、かつそのことを議論する当事者が意識していない場合が多いからである。

【例題4】次の会話をしている三人は、なかなかおいしいと評判の専門店を回っては、いつも仲良く昼食をともにしている。Bの提案に反対するCの発言の最後を埋めて、会話を完成させよ。その際に、根拠もあわせて記すこと。

A：「お昼は何にする。カレーライス、それともスパゲティ。」

B：「カレーライス。」

C：「スパゲティにしましょう。カレーは昨日（ ）」

()

根拠：

北島君は北海道出身なんだって。じゃあ、今度スキーを教えてもらおうよ。

「北海道出身者」は、「スキーが上手」である。 (大前提) 【隠されている】

「北島君」は、「北海道出身者」である。 (小前提)

ゆえに、「北島君」は「スキーが上手」である。 (結論)

【練習問題4】次の意見に隠されている大前提を、小前提・結論とともに、指摘せよ。

在野の学者である内藤湖南を、学問研究の最高府たる京都大学の講師として採用することに反対する。なぜならば、彼はドイツ語ができないからである。

小前提 =

結論 =

大前提 =

2-1. 隠された大前提の意味

「議論」が成立するためには、意見の対立がなければならない。そしてそれは、反論という形式をとる。なぜなら、意見とは、本質的に先行する意見に対する「異見」として生まれるからである。要するに、「反論」という行為は、議論の一要素などというのではなく、議論の本質そのものなのである。

そして、その「反論」は、議論の相手が言語化したいわば見えている小前提や結論に反論することではなく、相手の発言の背後に存在し、その発言を生み出した価値判断そのもの、すなわち隠された大前提に対して批判の矢を向けなければ、相手の議論に反論したことにはならない。

【例題5】次の意見に対して、隠されている大前提に注意して反論せよ。

なぜ日本人は鯨を食べるのでしょ。私はカナダ人と文通していますが、鯨はフレンドリーだし知性があるので食べないと言っています。鯨もイルカも殺すのをやめようという西洋人の神経を逆なでしたくありません。鯨を食べるのが日本の文化などと言ってないで、世界の友人たちの気持ちを理解しようではありませんか。

2-2. 隠された大前提を見抜く

隠された大前提は、根拠と主張との間の飛躍が大きければ大きいほど簡単に見抜くことができる。また、根拠と主張それぞれの不十分さが明らかな場合も同様である。しかし、その根拠や主張が一見常識的で、意見も論理的にすすめられて根拠と主張とに飛躍がないように見える場合は、見抜くことが難しい。そういう時こそ、その議論の根拠と主張とを丁寧に抜き出して明確にすることが求められる。また、主張の型と同様の例を反例として考え出し、大前提をわかりやすく示すという方法も有効である。

【練習問題 5】 次の意見に対して、隠されている大前提に注意して反論せよ。その際に、小前提と結論も明示し、反例も具体的に示すこと。

事業に失敗し倒産したベンチャー企業に対して、救済策を模索する動きがあるそうだ。しかしながら、企業は私的な利益を追求するものであり、それが不利益を蒙ったのはあくまでも企業自体の不心得によるものである。企業側は、その原因をあれこれと並べ立てるだろうが、何を語ってもそれは敗者の弁でしかない。自分自身の失敗を棚に上げて、それを他に転嫁するなど身勝手すぎる。救済策などはまったく必要ない。

小前提 =

結 論 =

大前提 =

(参考：野矢茂樹『新版論理トレーニング』産業図書
香西秀信『反論の技術』明治図書)

【グループディスカッションメモ】